

掲載しているイベント・休館日等の情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等に応じて、中止または変更になる場合があります。最新の情報は、図書館ホームページにて掲載しています。

いしおかの民話が紙芝居に

「ふるさと学習」のテキストづくりにかかわった「府中塾」の協力を得て、市に古くから伝わる民話の紙芝居4作品を発行しました。

- ▶ 「親は諸白、子は清水」
- ▶ 「国分寺の雄鐘、雌鐘」
- ▶ 「長楽寺の天狗」
- ▶ 「代田のダイダラ坊の足跡」

ふるさと学習や、一般貸出用として活用します。



児童クラブに本を配達

臨時休校していた市内小学校の児童クラブに本を届けました。本は図書館職員が1冊1冊消毒。今後も子どもたちが楽しい時間を過ごしてもらえるように、様々な活動を続けていきます。



読書感想文の課題図書

7月1日(木)から貸し出します。

▶ 冊数: 1冊 ▶ 期間: 1週間(延長不可)

※該当する学年の本を、児童本人のカードで借りてください。

7月のおはなし会

◆こども図書館 午前10時30分から

おはなし玉手箱 4日(木)

ひよこのおはなしかい 9日(木)

むかしむかしのおはなし会 18日(木)

◆中央公民館 午後2時30分から

おはなしフレンズ 11日(木)

【7月の休館日】 6日(木)・13日(木)・20日(木)・23日(木)・24日(金)・27日(木)・30日(木)



『流行 第5年3月号』

写真の資料は雑誌『流行』の第5年3月号で、明治41年に刊行されたものです。刊行元は江戸三大呉服店といわれるほど江戸時代に繁盛し後に百貨店の先駆けとなった白木屋呉服店で、服の生地などの商品紹介、化粧品などの広告、衣服の流行や髪のかき方について

今 回は市に寄贈された資料の中から、およそ100年前のファッション誌を紹介します。

時の記憶

シリーズ177

100年前のファッション誌

岡文化振興課(支所)

Tel 43-1111 (内線1324)

いてのコラムなどが掲載されています。化粧の仕方のコラムを読んでみると、「目をパツチリ見せる法」などの現代に通じるような項目もあれば、「卵之助あぶら」という髪付け油の使い方という現代では滅多に使わなくなったものに関する項目もあり、100年前の人々の生活が垣間見えます。

雑誌などの逐次刊行物の大半は、読み終わると皆さん処分されてしまうのではないのでしょうか。これらは最初は日常のごく当たり前のものです。しかし時間が経って振り返ってみると、当時の社会を切り取ったとても貴重な資料となっているのです。

ふるさと歴史館では7月1日(木)から、市民から寄贈を受けた書籍や日用品に関する展示を開催します。

ふるさと歴史館企画展 身近な文化財

— 石岡市寄贈資料展 —

期間／7月1日(木)～10月4日(日)

場所／ふるさと歴史館

休館日／月曜日

(祝日の場合は翌日)

俳句

いしおか俳句同好会

東光台 小泉ちよ子
豆飯や巢ごもる家の風通し

北府中 野村敵津子
薫風の欲しいままなり八十路坂

東光台 福田 泰夫
可も不可も無くて七癖振り花

東光台 森まさえ
引けば生ふ草引く日課里ぐらし

山崎 若色 茂
ふうわりと驚の着水田植の餉

やさど俳句会

柴内 羽生 俊
空の青咲きのぼりゆく鉄線花

辻 上林 愛子
揚雲雀夫に伝へよ吾が心

瓦谷 石田誠一郎
田植終へ豊かに水の張られけり

短歌

石岡短歌同好会

東大橋 森 美千瑠
日を受けて地にたつ影明かに
てわが屈託の姿にあらず

井関 木間塚 具子
誰かれとすれ違いさま眼は追い
ぬ色とりどりの手作りマスク

山崎 若色 茂
校庭の桜を見上げ若き日に
わしらが植えたとき々に語る

俚謡(都々逸)

石岡俚謡会

若松 川崎 洋子
ハツと気がつく 何でも忘れ
悔いてメモ見て ちぢむ肩

東大橋 醍醐 正夫
桜模様の 着物が綺麗

コロナで花見は 衣紋掛け
山崎 若色 茂

子供叱って わが身を思う
俺も昔は そうでした

鹿の子 田村こまき
コロナウイルス 逃れて山に

つづく茶畑 登山口
細谷 高橋 真希

若葉いろどる 優しい緑
胸は爽やか 空は青

東光台 福田 泰夫
母の土産 故郷の香り

菜花 露味 噌 桜餅
府中 助川 浩史

声が大きい 二人の会話
耳が互いに 遠くなる

深山桜も 無情の風に
散って谷間の 花笈
下林 加藤 弥生

貝地 前島くに子
コロナ飛んで 大きな声で
早く学校へ 行きたいよ

川柳

いしおか川柳会

石岡 北白川 令
チラシ見て買出し急ぐ主婦の性

小幡 高橋 房子
秘め事は言わぬが花よウフフ

柿岡 永瀬 敬子
ネコ叱り猫撫で声でフォローする

投稿作品

北府中 友部 澄子
いつの間にしたたるような柿

若葉命の息吹にあふれ輝よう
大塚 松岡 元義

肩先に匂ひ残して梅花弁
石岡 赤津 貞行

娘から誕生日のプレゼント
礼状書いて嬉し涙が

お詫びと訂正

広報石岡6月1日号掲載の俳句に誤りがありました。お詫びして訂正します。

種浸す恋瀬川より水受けて
柿岡 岡村 素泡

第22回 八郷硯友会

この会は、約30数年前に、八郷町内の書塾主催者と同好の氏が団結をして結成された団体です。

市が合併してからも、年1回の硯友会書展(8月)、各地の美術館や展示会の見学研修、柿岡小学校の書初め指導等を主な活動としています。会員には公民館講座の指導をしている



文化協会だより

者もおりますので、興味がある人は、お問い合わせください。

会員数：30人 年会費：1,500円
☎Tel 42-3039(助川)、44-3344(小松)
43-0792(平岡)、090-7711-9689(松本)

石岡三曲協会

・三曲合奏温習会

日時：7月4日(土)

午前9時30分～午後0時30分

場所：若松町公民館 1階

☎石岡三曲協会 Tel 22-2597(川村)